

## みまきっこまんなか応援まちづくり事業計画

市町村名 久御山町

|   |   |            |  |           |
|---|---|------------|--|-----------|
| (1) プロジェクト名                                   | みまきっこまんなか応援まちづくり事業  |            | 計画期間   | 令和6年-令和9年 |
| (2) 全期間の取組概要                                  | <p>○みまきっこ応援のまちづくりの拠点を整備し、拠点での子ども自治会や寺子屋塾、子ども応援サポーター活動等を通して、子どもをまんなかにして多世代が交流・活躍できるまちを目指す。</p> <p>具体的には、子どもだけで構成された「みまきっこ自治会」を組織し、子どもが地域の取組を主体的に考え活動することで、地域に愛着をもった「みまきっこ」を育み、まち全体で「みまきっこ」を応援するまちづくりに取組むとともに、久御山の自然と伝統を感じられる場所に「みまきっこまんなか寺子屋塾」を開校することにより、多世代が交流できる活動や子どもが自分たちで考えて行動する力をつけるための活動を展開する。さらに、地域のあらゆる場に子ども達に寄り添い、自主的な活動を支える「みまきっこ応援サポーター」のいるまちづくりをすすめ、子どもをまんなかとした地域ぐるみの子育てを行うことにより、本町が目指している「子ども達の声が響き渡る『全国一番の子育て環境のまちづくり』」の核とする。</p> |            |  |           |
| (3) 実施エリア<br>※対象エリアの見取り図(縮尺1/2500以上)を別途添付すること | ※別途添付   |            |  |           |
| (4) まち(エリア)の背景・概況                             | エリアの特徴  | 施設         | <p>久御山町立みまきこども園、御牧小学校、久御山中学校の教育施設が整い、国登録有形文化財である旧山田家住宅、玉田神社など、歴史や文化資源が身近にあり、親しむことができる。</p> <p>また、令和7年度には、幅広い世代が利用できる全世代・全員活躍まちづくりセンター「グランハット」が開館予定である。</p>   |           |
|   |   | 空間         | <p>御牧地区は、かつて「巨椋池」と呼ばれた広大な湖沼が存在し、周囲16km、面積約800haに及ぶ一大遊水地帯を形成していた。豊かな漁場と自然をたたえる土地であったが、反面、洪水がたびたび起こり、水との戦いを強いられてきた地域でもある。その後、昭和16年に初の国営干拓事業により巨椋池は干拓田となり、周辺地域の農業と互いに作用しながら発展してきている。かつて池であったことから、川魚などの淡水魚が豊かに取れる漁場として発展し、淡水魚を使った郷土料理が受け継がれている。また、野鳥の姿が現在も多く見られるため、バードウォッチングを楽しむ人も多い。また、宇治川堤防からの巨椋池干拓田の眺めは素晴らしい。</p> <p>地域住民の交流の場としては、東一口の桜まつり、玉田神社の秋祭りなどの地域行事や、御牧おやじの会が主催するお泊まり会、御牧校区青少年健全育成協議会のいもほり大会や水泳大会など御牧小学校を拠点とする事業が実施されている。</p> |           |
|   |   | 住民(子ども・大人) | <p>本町は18の集落にわかれるが、そのうち11集落が御牧地区である一方、人口割合では、全体の約25%のみを占める地域である。0歳から小学6年生までの子どもの数は、町全体では665人、御牧小学校区では210人と全体の約30%(令和6年4月1日時点)を占めている。加えて、久御山町の高齢化率が31%であるのに比して、御牧小学校区の11集落の内8集落が町全体の高齢化率の数値</p>  |           |

|                           |  |                       |   |
|---------------------------|--|-----------------------|---|
|                           |  |                       | <p>を超えており（令和6年4月1日時点）、少子高齢化が進んでいる。</p>  |
| <p>これまでの特徴的な<br/>取組経過</p> |  | <p>活動する支援者・支援団体</p>   | <p>御牧小に通学している児童の父親により結成された「御牧おやじの会」があり、地域の子どもと父親の交流の場として、小学校でお泊まり会をし、バーベキュー、お化け屋敷体験と、子育てを通じた地域活動をしている。</p> <p>「御牧校区青少年健全育成協議会」では、地域の子どもたちを対象とし、地元の農業者と協力して近隣の畑でのいもほり大会や小学校のプールを利用した水泳大会などの行事を実施している。</p> <p>町全体では、「NPO法人ひと・まち・ジャンクション」が、日本財団の『子ども第三の居場所』事業の採択を受け、家でも学校でもない子どもの新しい居場所を令和6年2月に開設した。また、MAHALO MARCHE（マハロ・マルシェ）やKUMIDAN（くみだん）といった地域団体も、定期的な子育てイベントを開催するなどして町を盛り上げている。</p> <p>久御山町の地域活性化のために活動する京都文教大学の学生サークル団体「KminK（クミンク）」も、久御山町や自治会と連携し、活動している。</p> |
|                           |  | <p>子育て支援に係る施設の整備</p>  | <p>みまきこども園を整備（R3）</p>   |
|                           |  | <p>子育て支援と別目的の施設整備</p> | <p>①全世代・全員活躍まちづくりセンター「グランハット」を建設中（R7年度開館予定）<br/>②旧山田家住宅公開に向けた整備工事実施（H27～H28）<br/>③宇治川河川敷整備工事（R6から工事予定）</p>  |
| <p>行政の取組</p>              | <p>①「地域子育てモデル事業補助金」（R5～）<br/>・子どもを中心とした活動を通じてコロナ禍で希薄化した「地域のきずな」を再構築するため、令和5年度に制度を創設。子どものためのイベントを実施する団体に対し、上限15万円の補助金を交付。</p> <p>②妊産婦のタクシー料金の補助</p> <p>③高校生までの医療費無償化（R5.9～）</p> <p>④妊娠8か月の方へ育児用品の配布（R6～）<br/>・妊娠8か月の方に育児用品とともに、産前産後の子育て支援をお知らせする事業</p> <p>⑤子育て応援「はぐくみ定期便」（R5～）<br/>・生後3か月以降の乳児がいる家庭に対し、おむつなどの育児用品を支援員が届けるとともに、育児の悩みを聞く事業</p> <p>⑥使用済紙おむつのこども園内収集（R6～）</p> <p>⑦こども家庭センター（R6～）<br/>・母子保健と児童福祉の両方の機能を一体的に担う「こども家庭センター」の機能を、従来の相談機関である「くみやま子育て応援センター『はぐくみ』」にもたせ、専属でセンター長を設置。児童虐待の早期発見、早期防止に努めている。</p> <p>⑧多子世帯住宅支援事業（R6～）</p> |                       |   |

|                                 |                     |   |  |
|---------------------------------|---------------------|---|--|
|                                 |                     |   | <p>⑨かわまちづくり構想の策定（R6～）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川舟運活性化協議会への参画と生まれ変わる淀川舟運と連動したまちづくりの推進</li> </ul> <p>⑩住宅基本計画の策定（R6～）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て環境にもやさしい住宅づくりの基本計画をつくる。</li> </ul> |
|                                 |                     | 地域主導の取組   | <p>前述の「御牧おやじの会」、「御牧校区青少年健全育成協議会」の活動のほか、旧山田家住宅では地元住民で構成する「ふるさとをまなぶ会」が活動し、「もちつき」や「ちまきづくり」など、地域の伝統を子どもたちにも感じてもらえるイベントを実施。</p> <p>また、秋に実施される町民運動会には、御牧地区から多くの自治会が参加し、運動会前には公園等に集まって、練習をしている。</p>                             |
| (5) 子育てにやさしいまち（エリア）の課題分析と今後の解決策 | 課題                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意見を取り入れる仕組みづくりが求められている中で、子どもにとって必要な機能などの意見を聞く場がない。</li> <li>・校区内の徒歩圏内に子育て支援施設や多世代交流が行えるような場がない</li> <li>・子どもに地域の資源を活用してもらえていない</li> <li>・子どもや子育て世帯数が減少している</li> <li>・市街化調整区域であるため、新たな施設整備や新たな世帯流入が見込みづらい</li> <li>・孤食の子どもや高齢者が一定数存在し、安全かつ充実した暮らし・食生活が損なわれる場合がある</li> <li>・従来、子どもと大人が近い距離にあったが、つながりが希薄化しやすい傾向にある。</li> </ul> |  |
|                                 | その要因                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化調整区域である</li> <li>・校区内に子育て支援施設や多世代交流施設がない</li> </ul>  |  |
|                                 | 解決策                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主役のまちづくりをするための拠点整備</li> <li>・子どもの意見等が反映できる仕組みづくり</li> <li>・子どもにとって安心安全な環境づくり</li> </ul>   |  |
|                                 | 解決に必要なキーパーソン・関係団体など | <p>拠点の管理・運営を実施でき、近隣に所在する施設において、地域の人材をコーディネートしながら子育て支援活動を展開する団体</p>  |  |
| 検討方法                            | 検討期間                | R6.7月～R6.9月   |  |
|                                 | 住民                  | 子ども・子育て委員、大学生、子育て世代の住民  |  |
|                                 | 関係団体                | NPO法人ひと・まち・ジャンクション、御牧おやじの会、御牧校区青少年健全育成協議会、郷土史会、JA女性部  |  |
|                                 | 外部有識者               | 京都文教大学 大森准教授  |  |
|                                 | 委託先                 | 株式会社 地域計画建築研究所  |  |
| (6) 子育てにやさしいまち（エリア）の資源・価値等      | 施設                  | 旧山田家住宅、玉田神社、周辺公園、公会堂  |  |
|                                 | 空間                  | 前川堤の桜並木（京都の自然200選）、宇治川河川敷   |  |
|                                 | 活用が不十分な要因           | 自然的・文化的資源を子どもが自由に活用できる仕組みができていない  |  |
|                                 | 価値の内容               | 自然や伝統を感じ、子どもがのびのびとできる   |  |
|                                 | 地域のキーパーソン           | 子ども   | 自治会の子ども会、小学校・運動場・体育館を利用するスポーツ少年団体  |

|                                 |              |  |                                 |
|---------------------------------|--------------|--|---------------------------------|
|                                 |              | 大人   | 御牧おやじの会、御牧校区青少年健全育成協議会、郷土史会、大学生 |
| 住民等関係者や外部有識者と検討した内容             | 検討期間         | R6.7月～R6.9月  |                                 |
|                                 | 住民           | 子ども・子育て委員、大学生、子育て世代の住民   |                                 |
|                                 | 関係団体         | NPO法人ひと・まち・ジャンクション、御牧おやじの会、御牧校区青少年健全育成協議会、郷土史会、JA女性部   |                                 |
|                                 | 外部有識者        | 京都文教大学 大森准教授   |                                 |
|                                 | 委託先          | 株式会社 地域計画建築研究所   |                                 |
| 子どもの意見の反映内容                     | 実施時期         | 令和6年6月13日～令和6年6月28日  |                                 |
|                                 | 意見を聞いた子どもの属性 | 久御山町の小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒 (n=574)  |                                 |
|                                 | 意見の収集方法等     | 久御山町子どもの生活実態調査において、こどもの状況を把握するために実施したアンケート調査より収集(学校経由による配布・WEB回答で意見を収集)  |                                 |
|                                 | 計画への反映内容     | <p>家以外での居場所(例:気軽に来られる、夕ご飯を食べることができる、勉強を教えられる、相談できる等)を求めている子どもが多く、居場所には「いつでも行ける」気軽さや、「好きなことをして自由に過ごせる」気楽さを求める割合が多い中で、「いろんな人と出会える、友達といっしょに過ごせる」「自分の意見や希望を受け入れてもらえる」「新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる」といったことを求めている子どもも多かった。</p> <p>このことから、子どもが気軽に気楽に行くことができる拠点を整備し、拠点において様々な取組を実施することで、子どもの主体性を尊重し、住民と連携しながら様々なことに挑戦できる環境を整えることとする。</p>   |                                 |
| (7)まち(エリア)で子どもを見守り支えるための4つのステージ | 概要           | <p>○御牧校区は、子育てに適した農村地域であり、地域の人材も多く、従来から子どもを支援する活動が活発に行われている。今回の取組により、この地域が、大人が見守るなか子どもが主体的に動くことができ、また、子どもをまんなかにして住民がつながっていき、多世代が認め合い、共に暮らす社会の構築を目指し、拠点整備等をしていく。</p> <p>○子どもが気軽に行くことができ、子どもたちの活動拠点となる適切な場が校区内にないため、新たに「みまきっこまんなか応援村」を整備し、拠点において以下4つの取組を実施する。</p> <p>【拠点での取組】</p> <p>①みまきっこ自治会：子どもの意見や考えを地域に反映できる仕組みとして、子どもが地域の取組を主体的に実施し、地域に関わることを可能とする</p> <p>②みまきっこまんなか寺子屋塾：みまきっこ自治会による企画運営を基本とし、遊びや学びの取組を実施するなかで、親子同士の交流や多世代交流を可能とする</p> <p>③プレイバス(どこでも遊び場とすることができる取組)</p> <p>：地域の資源となっている様々な施設・空間で実施することで、地域の資源を子どもたちに身近に感じてもらうだけでなく、プレイバスが出張することで、校区のあらゆる場所で子どもと住民との接点をつくれるようにする</p> <p>④みんな食堂：子どもだけでなく、孤食となっている高齢者など、あらゆる住民が立ち寄り、食事を楽しめる場所とする。農業が盛んな久御山の食材を使用し、地域の資源を身近に感じてもらう</p> <p>○御牧校区を活用した他課の取組とコラボし、地域資源の開拓をする。</p> <p>○「みまきっこまんなか応援村」での取組が円滑に開始できるよう、地域で子育てをする機運を、シンポジウムや子育て支援団体の支援により、醸成していく。</p> |                                 |
| ①まち(エリア)の中で、様々な資源を活             | 目指すべき姿       | <p>子どもにとって馴染みのなかった自然的・人的・文化的な地域資源を、子どもが知り、子どもにとって親しみやすいものにする。</p> <p>拠点については、どのような施設とすれば、子どもたちが集まるかの設計対話や実証実験を行い、基本設計や詳細設計を実施し、緑豊かな包括地域という立地環境になじむよう、府</p>   |                                 |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>用して子どもを育てる<br/>(どのような資源を活かし、子どもを育てようとしていくのか)</p>  |   | <p>内産木材を使った木造づくりの施設を整備することにより、親しみや温かみのある地域に愛される拠点とする。</p> <p>また、活動の基盤づくりとして、地域で子育てをする機運を、シンポジウムの開催等により醸成する。</p>  |
|  | 実施時期                                      | 令和7年1月以降   |
|  | 庁内の取組体制                                   | 子育て支援課、教育委員会   |
|  | 実施・連携主体<br>(団体・個人)                        | NPO法人ひと・まち・ジャンクション、郷土史会会員、久御山中学出身の高校生や大学生、シニアクラブ会員、子育て世代、御牧おやじの会、御牧校区青少年健全育成協議会役員、農業従事者 等  |
|  | 対象者                                       | 御牧校区の未就学児～小学生、久御山中学校の生徒  |
|  | 具体的な資源                                    | 旧山田家住宅、玉田神社、周辺公園、公会堂、前川堤の桜並木、宇治川河川敷、久御山産野菜   |
|  | 取組内容                                      | <p>①子どもが地域資源を知る機会の創出として、地域の大人が子どもに地域資源を紹介する取組を実施するため、みまきっこまんなか寺子屋塾を開校する。<br/>(寺子屋塾での取組例)<br/>自然資源の活用：河川敷などでの凧あげや、久御山産食材をいかした料理教室<br/>文化資源の活用：旧山田家住宅、公会堂等を活用した昔遊び</p> <p>②地域資源を活用し、子どもが楽しめる取組を地域の大人や大学生(人的資源)と協力・連携しながら実施するため、プレイバスの取組や他課とコラボした取組を実施する。</p> |
| <p>②まち(エリア)の中で、様々な資源と繋がりながら、子どもが育つ<br/>(子どもたちが、まちの中でどのように過ごし、成長したり、まちへの愛着等を醸成させていくための工夫)</p> | 目指すべき姿                                    | <p>子どもが自ら考え、判断し、地域資源を活かして様々な体験をすることで、地域の一員として活動し、地域づくりに貢献しているという意識が育ち、地域への愛着を醸成するため、模擬みまきっこ自治会を設置し、拠点整備後の子ども自治会の継続的な活動を目指す。</p>  |
|  | 実施時期                                      | 令和8年度  |
|  | 庁内の取組体制                                   | 子育て支援課、教育委員会   |
|  | 実施・連携主体<br>(団体・個人)                        | NPO法人ひと・まち・ジャンクション、郷土史会会員、久御山中学出身の高校生や大学生、シニアクラブ会員、子育て世代、御牧おやじの会、御牧校区青少年健全育成協議会役員、農業従事者 等  |
|  | 対象者                                       | 御牧校区の未就学児～小学生、久御山中学校の生徒  |
|  | 取組内容(子どものまちの中での過ごし方や、それによる子どもの成長に導くための工夫) | 子どもが自ら、興味・関心のある地域資源を見つけ、地域資源の楽しい活用方法について企画することで、自らが考えて行動する力を育てる  |
|  | 取組内容(愛着等を醸成していくための工夫)                     | <p>地域資源を活用する取組を企画・実施することで、地域づくりに貢献し、地域の一員として活動しているという意識を育てることで、地域への愛着を醸成する。</p> <p>継続して、地域で子育てをする機運を醸成するため、子育て支援団体に対して補助金を交付する。</p>  |

|  |   |   |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|--|---|---|---|---|-----------|---|---------|------------------------------|----------|----------|
| ③まち（エリア）全体が、子どもたちへの関心の輪を広げながら、子どもたちを育てる<br>（住民等が子どもと交流することで、子どもに対する意識や関心が高まっていくことなど、まち全体で子どもを見守り支える機運をどのように醸成していくのか） | 目指すべき姿  | 整備した「みまきっこまんなか応援村」を拠点に「みんな食堂」を開設し、御牧校区の住民が、子どもとの関わりをもち、住民自身も楽しみながら、子どもの声（やりたいこと等）をくみ取り、子どものやりたいことを支援する。また、プレイバスの本格実施や寺子屋塾の運営、子ども自治会活動の取組を通して、地域のつながりをつくることを目指す。   |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 実施時期  | 令和9年度（拠点整備後）  |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 庁内の取組体制   | 子育て支援課、教育委員会  |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 実施・連携主体<br>（団体・個人）  | 御牧校区の子ども、大学生、NPO法人  |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 対象者   | 御牧校区の住民   |   |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 取組内容（地域の大人（住民、事業者等）の子どもに対する意識や関心を高める工夫）   | プレイバスや拠点での取組を通じて、地域各所の近隣の人たちが子どもと関わり、子どもがやりたいこと等の子どもの声をくみ取りながらも、子どもも住民自身も楽しめる企画を考え、実施することで、子どもへの関心も高める  |   |   |           |   |         |                              |          |          |
| 取組内容（まち全体で子どもを見守り支える機運を醸成する工夫）   | 大人も子どもも参加できる「みんな食堂」や寺子屋塾での「みんな講座」の取組を通じて、住民、子どもの双方がお互いを知り、関係性をつくる。そのような取組の実施にも、子どもの主体性を大事にする。 |   |   |   |           |   |         |                              |          |          |
| ④まち（エリア）全体が、多世代が認め合い、共に暮らす社会へと育つ<br>（まち全体で子どもを見守り支える環境のもと、多様な世代が存在を認め合いながら、共に暮らすまちへと、どのようにまちを発展させていくのか）              | 目指すべき姿  | <p>○子どもを通じ、みんなが楽しくいきいきとしたまちを目指す</p> <p>拠点での取組を通じ、子どもが、御牧校区への愛着を深めつつ、住民との良好な関係性を継続させ、子どもを通じ、地域内で多世代が交流し、活躍できるまちを目指す。</p> <p>また、拠点での取組み充実だけでなく、行政として子育て世帯の居住誘導も図りながら、地域として子どもを通じたまちづくりの好循環が継続できるまちを目指す。</p> |   |   |           |   |         |                              |          |          |
| (8) 成果指標   | 目標設定の考え方  |   | 子どもが楽しく自発的に地域資源を活用できているかに加え、住民との接点をつくり出すことができたかを図ることができる目標を設定 |   |           |   |         |                              |          |          |
|  | 目標番号  | 評価項目  | 4つのステージ   | 評価データ                                   | 基準年度/基準値  | 1年目   | 2年目     | 3年目                          | 目標年度/目標値 |          |
|  | 数値目標  | 1   | みまきっこ自治会参加人数  | ②、③                                     | 自治会員名簿    | R6年度/0人                                     | 0人      | 10人                          | 15人      | R9年度/15人 |
|  |   | 2   | みまきっこ寺子屋塾での登録講師数  | ①、②、③                                   | 講師登録名簿    | R6年度/1人                                     | 3人      | 8人                           | 12人      | R9年度/12人 |
|  |   | 3   | プレイバスの出張回数  | ①、②、③                                   | プレイバス出張履歴 | R6年度/1件                                     | 2件      | 4件                           | 6件       | R9年度/6件  |
| 目標番号   | 評価項目  | 4つのステージ   | 評価内容  |   | 基準年度の状態   |   | 目標年度の状態 |                              |          |          |
| 非数値目標  | 4   | 4つのステージの先を見据え、校区を超え、久御山町として子どもや大人の交流が増えたと感じる割合  | ④   | 拠点整備をきっかけとして、立ち上がる取組の効果を町全域が実感できるかを評価する |           | 多世代が交流できる機会が少なく、多様な世代同士の関係性が希薄化している状態（R6年度） |         | 町全体で、子どもから高齢者まで多世代の交流が見られる状態 |          |          |
| (9) 計画内容の周知方法  | 計画の概要版を作成し、ホームページ掲載、関係団体等に配布することにより周知を図る。   |   |   |   |           |   |         |                              |          |          |

【添付資料】

